

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



日教組災害対策本部

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

連合「第1次・被災地支援ボランティア」報告



連合「被災地支援ボランティア」の第1次派遣団が活動を終え、無事に帰ってきました。

以下には、写真で活動している様子などをお知らせするとともに、ボランティアに参加した山本春枝組織対策部長の活動報告を掲載します。



ボランティア活動は主に、津波で被災した家屋内の泥などの撤去を行いました。写真のように、12人で1日かけて作業を行うことで、泥などを取り除くことができました。

かなり体力的にきつい作業でしたが、被災された方々に感謝の気持ちを伝えていただくことで、やってよかったという充実感を得ることができました。



【作業道具を準備する様子】



【津波で冷蔵庫が台所の上に】

「被災地支援ボランティア」に参加して

山本春枝

3月31日、連合の「被災地支援ボランティア」のメンバーとして、岩手県にむかって出発しました。岩手県花巻の東和にある土沢小学校（4月から廃校）をベースキャンプに、1週間、日教組18人は自治労とともに、大槌(おおつち)地区の民家の荷物や泥出しなどをしました。

バスから被災地区に近づくにしたがって、道路の両側は壊れた家、流れ着いた車、流木、あらゆるものが横たわっていました。地域によっては家もほとんど流され、足の踏み場もない状況です。阪神・淡路の震災も見てきましたが、ここには家も建物もなく全てが流され瓦礫となっていました。今までこのような景色を自分の目で見たこともなく、呆然と言葉を失い、今までここに住んでいた人たちのことを考えると涙が止まりませんでした。

大槌の桜木町のボランティアをする民家に案内されて、中を見たときには津波の凄さに驚くばかりです。1階部分は泥を含んだ海水が天井まで入ってきて、押入れの中も水浸し、タンスの中も泥水でいっぱいでした。電気製品は全て水に浸かったため廃棄しなければならず、畳も処分しなければなりません。食器戸棚は横倒しになっており、どの部屋も足の踏み場のない状況でした。

ボランティアの作業は被災された家の人とともに、畳、タンス、布団、衣類、電気製品、食器戸棚、ピアノなどを処分するために廃棄場所まで運びます。そのあと床、押入れ、戸棚、風呂場、洗面所などに溜まっている泥を出します。その後、水で洗い流す作業です。全ての物が海水を含んでいるのでとても重たく、チームが一丸となって声をかけあって動かなければなりません。全国から集まった日教組の組合員はきびきびと連携プレイができました。

1週間という短い期間でしたが、全国の組合員の方、連合のみなさんとともにボランティア活動ができたことは、私の大きな喜びです。これを機にこれからも被災地支援のボランティア活動に積極的に関わっていきたいと思います。

被災地のみなさま方、大変ですがお体に気をつけて頑張ってください！！